

令和8年度 活動体制紹介

※ 所長・課長 ※



普及課長（東農林課長兼務）滝田勝彦／所長 安藤義昭／
農業企画課長 小林大／生産振興課長 渡邊千恵

※ 普及課（担い手・経営支援グループ） ※



坪野樹（畜産）／竹田哲史（作物）／課長代理 丸山一成（作物）／
佐藤匠（果樹）／笹川珠未 職員

※ 普及課（上越北地区担当）：柿崎・大潟・頸城・吉川・三和 ※



神林勤（作物）／歌代あおい（作物）／
工藤悟琉（野菜）／課長代理 山澤秀紀（作物）

※ 普及課（上越南地区担当）：合併前上越・中郷・板倉・清里・名立 ※



池田明莉（野菜）／石沢結衣（野菜）／課長代理 田中貴代（作物）
中川海（作物）／大峽広智（作物）

※ 普及課（妙高地区担当）：妙高市 ※



早津美和（6次産業化（加工））／課長代理 和田茂（花き）／
浅見昇汰（作物）

※ 農業企画課 ※



金子由加莉／初道万莉／企画専門員 岸田涼子／石山美佳

※ 生産振興課 ※



土田優斗／課長代理 福嶋朗山／竹内健斗／兼村夕子

※ 上越東農林事務所：安塚・浦川原・大島・牧 ※



中條京子 職員／佐藤英美（野菜）／
課長代理 加藤武司（作物）／田中文浩（作物）

退職・転出者 お世話になりました

高橋 義和 長岡地域振興局農林振興部へ
今井 直子 十日町地域振興局農業振興部へ
星野 裕子 長岡地域振興局農林振興部へ
渡邊 なほ 退職
白木美恵子 南魚沼地域振興局農林振興部へ

松浦 佑亮 農林水産部地域農政推進課へ
小川 妙 農業総合研究所畜産研究センターへ
山本賢一郎 農業総合研究所作物研究センターへ
大田 康平 退職

上越農業普及指導センターだより

No.81
令和8年5月

●上越地域振興局農林振興部 （上越農業普及指導センター）

〒943-8551 上越市本城町5-6
TEL 025(526)9407 FAX 025(526)4080
HP <https://www.pref.niigata.lg.jp/site/jouetu-fukyuyusennta/>



●上越東農林事務所

〒942-0411 上越市安塚区安塚720-1
TEL 025(592)3847 FAX 025(592)3591
HP https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/jouetsu_norin/jhn-fukyuka-top.html



ホームページで旬の技術情報などを発信していますのでご覧ください

「とにかくやってみよさ！ 牧の農と暮らしを自ら体感し、発信する『まきにいる』」

上越市牧区の「まきにいる」は、令和5年度までのビレッジプランや地区まちづくりのワークショップの参加者を中心に、「何かやりたいね」という思いを持った有志が集まり結成されたグループです。

現在は20代から50代の若手農業者や地域で働く住民、関係者など計16名で活動を行っています。

「まきにいる」という名前は、「牧」とフランス語のavenir（未来）を組み合わせた言葉で、「牧に居る」、「牧を気にいる」という意味が込められています。

自らが楽しみながら牧で暮らすこと、地域外のみなさんに牧を知って気に入ってもらうことを目指しています。

現在の主な活動は、農業や暮らしを自ら体験し発信する「まきにいる田んぼ」の共同管理、地域の伝統的な調味料である「ぴりっ子」を次の世代へつなぐ「ぴりっ子再興プロジェクト」、棚田ライトアップ会場でのナイトマルシェ開催、秋祭りでの地元食材メニュー提供など、多岐にわたっています。

メンバーのみなさんは、まずは自分たちが動いてみることで「若い世代が地域に関わる」、「世代や集落を越えて相互作用を生む」、「牧区で暮らす意味を皆で見いだす」ことにつながればと考えています。

今後の活躍が楽しみなグループです。地域の皆さんからも応援してくださいませようお願いします。



※「まきにいる」の活動紹介動画はYouTubeで公開しています。

動画本編はこちら▶



<受賞紹介>

妙高市 農事組合法人ふる里妙高

全国そば優良生産表彰において、「全国蕎麦製粉協同組合理事長賞」を受賞しました。

高品質そばの安定生産と付加価値販売の取組みが高く評価されました。



普及指導センター今年度の取組 ここに注目！

1 暑さに強く、良食味な水稻の極早生品種「なつひめ（新潟135号）」の一般栽培開始

【作物担当】

新潟県では高温耐性品種のラインナップ化を進めており、今年度から高温に対して「新之助」並に強い極早生の新品種「なつひめ」の一般作付けが始まります。

普及指導センターでは令和6年及び7年度に展示ほを設置し、関係機関や生産者に新品種の周知を行うとともに、栽培特性の把握に努めてきました。

その結果、多くの生産者が栽培を希望され、今年度普及指導センター管内40～50haのほ場で作付けが予定されています。

昨年度末にはJAと連携して生産者への栽培指導会も開催しました。

今後も、新品種の高い収量と品質が確保できるように栽培支援を行っていきます。



【「なつひめ（新潟135号）」展示ほ視察】

2 地下かんがいシステムを活用したえだまめの収量・品質向上

【園芸担当】

上越地域では、ほ場整備地区でえだまめ栽培に取り組んでいます。

水田での園芸栽培は排水対策が大きな課題となっていました。令和7年度は各地域で高温・干ばつによるえだまめの生育不良がみられ、かん水対策が課題となりました。

排水とかん水の2つの課題の解決に向け、暗きょ+地下かんがいシステム+作付前のサブソイラ施工を組み合わせた栽培実証が取り組まれました。

かん水したいときは地下かんがいシステムを活用し地下から用水を入れ、ほ場全体に行き渡ったら速やかに排水できることが実証され、えだまめの収量は今までの収量を大きく上回り280kg/10a以上のA品収量をあげたほ場もありました。

今後は、暗きょ+地下かんがいシステム+サブソイラ施工により必要な時期にかん水・排水ができるほ場を増やし、えだまめの収量・品質向上を目指します。



【地下かんがいシステムを利用したほ場】

3 地域や担い手の農地の将来ビジョンづくりや体制整備について支援します！

近年、農事組合法人の解散や高齢化等による離農の増加により、農地の受け手となる担い手への急激な農地集積が進んでいます。

このため、雇用や機械整備等が間に合わず、品質・収量の低下のみならず雇用環境の悪化が問題となっています。

これらの問題の解決の一助として、担い手間の農地の利用調整により分散錯ほを解消し、農地の団地化や集約化を早急に進めていく必要があります。また中山間地では守るべき「農地」について農業者間で話し合いを進め、共有化する必要があります。

このため普及指導センターでは、「地域計画の協議の場」等を活用し、担い手間の「地域の将来像」について話し合う場を設定する等、関係機関と一体となって支援を行っていきます。



【地域全体の課題として地主の皆さんへの協力依頼のチラシ配布】



【地域計画の目標地図を活用して担い手間で協議】

ごあいさつ



上越農業普及指導センター所長
安藤 義昭

上越農業普及指導センターだよりをご覧いただきありがとうございます。また日頃より、当センターの活動に御理解と御協力をいただき感謝申し上げます。令和8年度は、

- ①力強い農業構造の確立と中山間地域における持続可能な農業・農村の仕組みづくり
- ②収益性の高い魅力ある農業経営体の育成
- ③農業人材の確保・育成に向けた地域の受入体制づくり

を重点課題として位置付け、担い手への農地集約や中山間地域の活性化、稲作の省力化や園芸販売額の拡大、就農希望者の受入体制構築などに重点的に取り組むほか、地域の様々な課題の解決に向け、関係機関・団体と連携させていただきながら取組を進めてまいります。

今年度も職員一同、どうぞよろしくお願いたします。